

刈田郡湯原村と伊達郡茂庭村と山境御論所絵図
(宮城県図書館所蔵)

平成30年度 **企画展**

仙台藩山守足軽の里 稲子

開催期間 平成30年 **8月7日** (火) ~ **11月11日** (日)

場所 **七ヶ宿町水と歴史の館
特別展示室**

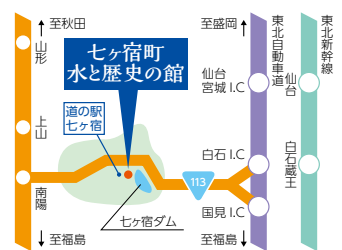


七ヶ宿町水と歴史の館

宮城県刈田郡七ヶ宿町字上野 8-1 (七ヶ宿ダム公園内)
TEL/FAX 0224-37-2739
E-mail: mizutorekishi@tiara.ocn.ne.jp

期間中、町民の方は無料で入館できます。

- 〔開館時間〕 9:30~16:30
- 〔休館日〕 毎週月曜日と祝日の翌日 (土・日曜日は除く)
- 〔入館料〕 一般 310円(240円)
高校生 200円(160円)
小・中学生 100円(80円)
※()内は20人以上の団体料金



稲子地区は、天和元年（1681）に10名の足軽が湯原から派遣されて仙台藩足軽集落としてはじまり、幕末まで仙台藩最南西部の山守りと藩境や街道の警備に携わった歴史があり今年で337年を迎えました。

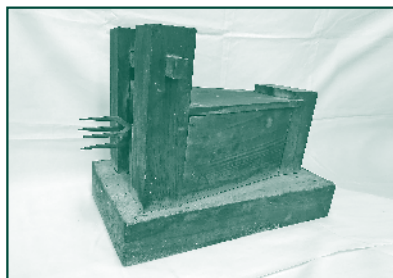
天和元年以前は、特に集落として形成はされていませんでしたが、湯原の人々が木地挽きや板木等の木地とりのために何ヶ所かに山小屋を建て仮住まいをしていました。

寛文7年（1667）から寛文9年にかけて仙台藩湯原村と幕府直轄領茂庭村との境界論争があったので、

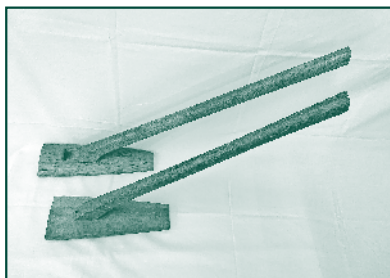
仙台藩で直属の足軽を稲子に配置したと言う経緯があります。

また、明治11年に明治政府は稲子の福島県帰属を決定しましたがそれに反対する稲子の人々は歎願書を内務省に提出して、翌年宮城県に再編入になり現在に至っています。

このように、七ヶ宿町の中でも特別な歴史的背景を持っている稲子地区にスポットを当て、これまで多くは知られていなかった稲子の歴史について、残されている資料を展示し紹介します。



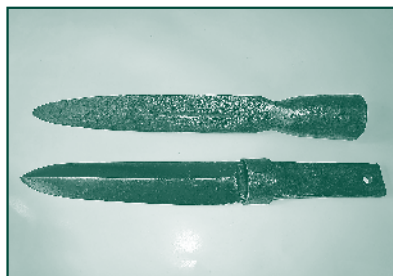
足踏みロクロ



鍬柄



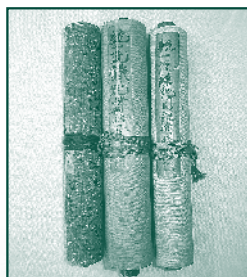
大葉亀之進・富男親子のコケン



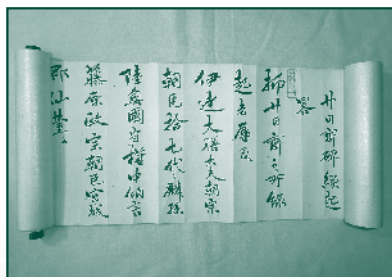
熊狩用三角槍



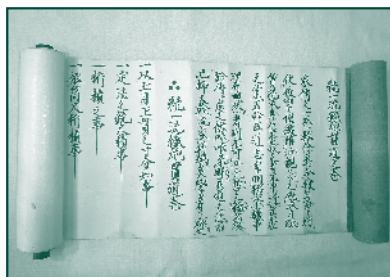
漆掻き道具



統一流鉄砲関係巻物



廿日齋碑縁起略



統一流鉄砲貫道之巻

・ギャラリートーク（当館館長による企画展の説明） 定員各20名

日 時：第1回 平成30年8月12日（日）午後1時～2時
 第2回 平成30年9月16日（日）午前11時～12時
 第3回 平成30年10月8日（体育の日）午後1時～2時

場 所：七ヶ宿町水と歴史の館特別展示室

・稲子地区見学（ワゴン車にて送迎及び説明案内） 定員各8名

日 時：第1回 平成30年8月12日（日）午後2時～4時
 第2回 平成30年9月16日（日）午後1時～3時
 第3回 平成30年10月8日（体育の日）午後2時～4時

※内容は、ギャラリートーク、稲子地区見学いずれも3回とも同じ内容で、入館料が必要です。（町民は無料です。）
 ※いずれも事前申込みが必要です。（先着順）

上記の申込先：七ヶ宿町水と歴史の館
 七ヶ宿町字上野8-1

TEL/FAX：0224-37-2739 メール：mizutorekishi@tiara.ocn.ne.jp